

2023.10.7

宝賀寿男の天孫族起源論

清水徹朗

1

宝賀寿男『天皇氏族－天孫族の来た道』（2018）

私の長年の疑問に対してある程度答えを示している本



宝賀寿男（ほうが としお）

1946年生まれ（現在77歳）

東大法学部卒、大蔵省勤務（-1998）、中小企業大学校校長を経て、
現在弁護士。日本家系図学会会長、家系研究協議会会長

『古代氏族系譜集成』（1986）

『巨大古墳と古代王系譜』（2005）

『「神武東征」の原像』（2006）

『神功皇后と天日矛の伝承』（2008）

「古代氏族の研究」シリーズ（18氏族）
[2012-22]



2

宝賀寿男『天皇氏族－天孫族の来た道』

第一部 天皇氏族の総覧

1. 序説
2. 天皇氏族の特徴
3. 鉄鍛冶と巨石墓・副葬品
4. 天孫族の列島内移動

第二部 天孫族の源流探索

1. 天孫族と古代朝鮮半島
2. 古朝鮮と三韓諸国の起源
3. 天皇族は外来か
4. ツングース系種族が日本にきた可能性
5. 韓地・遼西から黄河上流域につながる源流

まとめ—天皇氏族の一応の総括—



3

はじめに—本書の目的

- ・大和王権の根幹をなす天皇氏族を遠い祖系まで溯って究明する
- ・外地からの種族渡来の存否という観点からの検討は上古史研究には是非とも必要
- ・先入観、主観を厳しく排除したうえで合理的で総合的な検討を行う
 - ← イデオロギー、タブーに対して冷静に挑む
- ・「天皇氏族」は広義では「天孫族」と同義

[考察の材料]

- ① 記紀神話を含む上古史史料
- ② 考古学的知見
- ③ 中国、朝鮮史の関係史料
- ④ 各種の系譜、祭祀、習俗、年代論、地理事情

4

第一部 天皇氏族の総覧

1. 序説

- ・天皇氏族の三つの流れ
 - ① 天孫・ニニギノミコトの流れ……天孫族の王家の流れとその分岐
 - ② 鍛冶神・天目一箇命の流れ……物部氏・出雲国造・土師氏等
 - ③ 知恵神・少彦名命の流れ……宇佐国造・息長氏等
- ・これまでの研究史……津田史学の影響により**応神ないし崇神より前の記紀等の史料を抹殺**してきた
- ・天皇氏族諸氏に関する問題点

2. 天皇氏族の特徴

- ① 神武は北九州筑前海岸部から兄彦五瀬命とともに畿内に東征
……**邪馬台国の東遷ではない**
神武の治世時期はAD175～194の19年間
← 「神武＝崇神」という同一人物の**はずがない**
- ② 「**欠史八代**」の諸天皇は**実在性を否定する根拠に乏しい**
- ③ 邪馬台国の九州残滓勢力は四世紀中葉に滅ぼされた
← 最終的には景行天皇の九州巡狩による

5

- ① 天照大神は高天原を主宰する男性神……**天照大神は卑弥呼ではない**
- ② 祖先の居住地から新天地に移ることを「**天からの降臨**」とするのは**東北アジアのツングース系の傾向**
← **天照大神のあまり遠くない祖先が日本列島(北九州)に到来した**
- ③ 「倭人」の人々の太宗を占める海神族は越人(タイ系種族)と同種族
← **天皇家の先祖は「倭人」とは系譜、種族が異なる**
- ④ 縄文時代から日本列島に住んでいたのは総じてクメール系種族(山祇族)
・弥生時代に日本列島に渡来したのは二系統
(1) 江南から朝鮮半島南部を経て稲作、青銅技術などをもって渡来した部族
(2) 東北アジアから渡来して鉄鍛冶技術をもった部族

[スサノヲ神](素戔鳴尊)

- ・**韓地から日本列島に渡来した天孫族の始祖がスサノヲ神(=五十猛神と同神)**
- ・五十猛神は韓地(新羅国)からの渡来(『日本書紀』)
- ・「スサノヲ」は遠い祖先の奉祀した神
- ・大己貴命(大国主神)は海神族の系統の祖神、スサノヲ神とはつながりがない

6

- ・八幡神の実体は五十猛神(宇佐神宮)・八幡神はもともと鍛冶神
- ・応神天皇(=八幡大神)は宇佐国造一族の流れをひく鍛冶部族の息長氏から出ている
- ・「韓神」(宮中坐神の一つ)は韓(伽耶)から渡来した五十猛神(=イタテ神)
- ・天皇家、天孫族には鳥トーテミズム(白鳥、八咫鳥)や始祖の卵生伝承(高句麗、新羅、伽耶と共通)がある
- ・鳥トーテミズムは太陽神信仰や鍛冶屋伝承と結びつくことが多い

3. 鉄鍛冶と巨石墓・副葬品

- ・朝鮮半島における鉄器使用はBC3~4世紀に始まった
 - その後、日本列島に伝わる
- ・支石墓は朝鮮半島の先史時代を特徴づける遺跡……北九州に伝わる
- ・積石塚も朝鮮から日本に伝わる
- ・朝鮮系無文土器も北九州で多く出土
- ・三種の神器(剣、鏡、玉)の由来は朝鮮半島にある
 - ← その源流はスキタイの王権(中央アジア)
- ・日本列島と東北アジア地方の地名の共通性
 - ⇒ 東北アジアの扶余、高句麗や箕子朝鮮、韓地王家に見られる様々な特徴を天孫族は備えていた

7

4. 天孫族の列島内移遷

- ・韓地から渡来してきた天孫族系の先祖は対馬等を経由して唐津あたりの松浦半島に上陸。その後、佐賀平野西端部に到達し、さらに東に進んで筑後の高良山麓に本拠地を置いた(神籠石、支石墓、高良神社)
- ・邪馬台国所在地問題……甘木・朝倉説(安本美典)、豊前説(鷲崎弘明)はともに根拠不十分
- ・熊襲は筑紫地域のなかで大和政権に最後まで抵抗した政治勢力
- ・崇神天皇は実在した最古の天皇(大王)
- ・崇神から景行までの三代にわたり纏向の地に宮都を構えて畿内の大王権が確立された
- ・成務期の後半期に九州から渡海して韓地への進出の動きを始める
- ・神武以来の王統は、仲哀天皇の死をもって外戚のホンダワケ(=応神天皇)によって篡奪され、ここで王統が変わった

8

第二部 天孫族の源流探索

1. 天孫族と古代朝鮮半島

- ・日本人は源が単一種族ではなく、三ないし四ほどの複数の種族からなるものの混淆体
- ・「倭人」と「天孫族」は必ずしも同一ではない

【既往研究】

- ・一部に妄想論的展開、無闇な人物比定が見られる(トンデモ論)
- ・津田史学の問題点、・皇国史観、贖罪史観
- ・百済、新羅の紀年問題、系図史料の信頼性

2. 古朝鮮と三韓諸国の起源

- ・箕子朝鮮……箕子は殷三賢人の一人、中心は朝鮮北部
 - 殷の遺民が支配階級で、土着民が被支配階級
- ・BC194 燕から亡命してきた衛満が王位を篡奪(衛氏朝鮮)
- ・衛満に追われた箕準が南に逃れ、馬韓の地を支配して馬韓王となる
- ・扶余の成立 → 高句麗建国(BC37 朱蒙)
 - 百済、新羅の成立(2世紀後半)……百済、新羅の建国時期は諸説ある

9

3. 天皇家は外来か

- ・藤貞幹「神武天皇は中国の呉の太伯の末裔」(1821)
 - ← 本居宣長等の国学者が激怒し攻撃
 - ・新井白石「我国の先は馬韓に出し事」を検討
 - ・横山由清「天孫族朝鮮半島渡來說」……明治初期の国学者
 - ・久米武、星野恒「日鮮同祖論」(1890年代) ← 一部(水戸学系)から激しい反発
 - ・喜田貞吉「日鮮両民族同源論」(1921)……歴史学者(京都帝大。東北帝大)
 - ・金沢庄三郎『日鮮同祖論』(1921)……言語学者(国学院大学、駒澤大学)
- ⇒ **1930年代以降、この問題を論じることがタブーとなった**
- ・江上波夫「騎馬民族征服説」(1948) ← 現在は否定論が支配的
 - ① 北東アジア系の騎馬民族である扶余系の民族が朝鮮半島の馬韓の「辰王」となり、その流れをひく部族が4世紀初めに半島南部の任那を基地にして北九州に侵攻し、倭人を征服して筋仁天皇の王朝が成立
 - ② 4世紀末～5世紀初めに北九州から移動し、畿内を征服して応神天皇の王朝が成立した ← 後期古墳の特徴

10

・「組織的な騎馬民族の渡来による征服王朝」というのは史実原型から離れており、**学説としては妥当性を欠いている**

・しかし、民族、言語、神話など文化的諸要素については**列島内に騎馬民族ないしツングース系民族との関係を思わせる要素が強く見られる**

・朝鮮半島からの外来部族が渡来した時期は古墳時代に入った4、5世紀という遅い時期ではなく、**もっと古い時期(紀元1世紀頃)を考えるべき**

・**渡来部族の支配者層の頂点に天皇家の遠い先祖があった**ことは、天孫族に関する様々な習俗、祭祀などから見て肯定できる

【「騎馬民族」とは何かという問題】

・ユーラシア内陸部において馬を飼育して活動の主体とした遊牧民系の種族

・中央アジアのスキタイ人、匈奴、突厥、モンゴル

・高句麗、百済を建国した**扶余族は半農半牧のツングース種に属していたが、それを「騎馬民族」と呼ぶのは適切ではない**

11

4. ツングース系種族が日本にきた可能性

・岡正男「天孫降臨神話は朝鮮半島経由で日本列島に入った。その担い手はアルタイ系の遊牧民文化要素を強くもち、おそらく皇室の先祖であった。」

(岡正男は人類学者[明大、東京外語大])

・大林太良(民族学者、東京大学)も岡正男の見解に賛同

・渡来時期……江上説(4、5世紀)は妥当でない

・三王朝交代説(水野祐)……①崇神王朝、②応神王朝、③継体王朝

← 大きな王統の交替はあったが、「天孫族」の範囲のなかでの系統交替

・神武の出身……直接外地から九州に渡来した人物ではない

・日本は古来多種族から構成されていた……日本人は数多の異なる種族が長い期間のうちに渾然融合してできあがった複成民族

① 狩猟焼畑文化をもつ先住民(「縄文人」)

② 稲作と青銅器の文化をもつ海洋沿岸(江南)系

③ 鉄器と粟・黍作の文化をもつ内陸部(東北アジア)系

・**縄文以降の内在的发展だけでは説明できない**

12

- ・弥生期は朝鮮半島や北方の中国東北部あたりに居住していた金属文明（特に鉄）を持った種族が渡来
- ・天皇家の鳥トーテミズム……蒙古民族、トルコ語族、ウラル語族と共通
- ・天の子、天孫という思想、太陽神信仰
- ・**伽耶・新羅の建国伝承、天孫降臨**
- ・五、八の数の重視（五十猛神、八幡神、大八嶋、八咫鳥、八坂神社）
- ・ソシモリ（牛頭）、クマナリ（熊）の伝承
- ・日本語の源流……南島語を下層としツングース語要素を上層とする重層言語（村上七郎、大野晋）
- ・金海、大成洞遺跡、亀旨峰、首露王陵



13

5. 韓地・遼西から黄河上流域につながる源流

- ・倭五王は中国の南朝に対し韓地における権原を主張（438年、451年、478年）
- ・「倭、新羅、任那、加羅、秦韓、韓六国諸軍事安東大將軍倭国王」……倭の支配者層が半島南部全体の領有権にこだわった
- ・日本列島内に多数分布する新羅神社はそのほとんどがスサノヲないし五十猛神を祭神とする
- ・百濟神社、高麗神社も存在するが数は少なく、**百濟、高句麗の滅亡後に7世紀後半に入ってきた後裔が奉斎したもの**がほとんど
- ・最古に渡来したのは天日矛の一族……**天日矛は新羅神社または大加羅の王子とされる**
- ・神功皇后の母方の祖先は天日矛であり、新羅方面に通じる
→ **天皇家は新羅、大伽耶方面あたりに関係していた**
- ・**伽耶地域が天孫族の韓地における起源の有力候補**
- ・伽耶の主露王は新羅と深い関係
- ・ニニギの天孫降臨説話と主露王など六伽耶国の建国説話は内容の重要な点で一致する
- ・殷、秦の両王朝には鳥信仰、太陽神という共通点がある

14

- ・殷族も周族ももとをたどれば西方遊牧民(水上静夫[中国古代研究、早大])
- ・わが国の天孫族が殷族と同種族の系統であれば、**源流の地は黄河上流部南岸の大湾曲地帯(ホルドス地方)**にあらう
- ・日本の三種神器の源流は、遠くはスキタイの三種の宝器にあり、それがアルタイ系遊牧民などによって伝わった。

まとめ—天皇氏族の一応の総括—

- ・天皇家などの古代支配層(天孫族)は箕子朝鮮の王族末流を主にした可能性が大きい。満鮮のツングース種族の血も交えた模様。伽耶から朝鮮海峡を渡って倭地に到来した。
- ・**日本の神社信仰の成り立ちに新羅、伽耶が大きな役割を果たした**(出羽弘明)
- ・渡来の時期は紀元1世紀前半頃
- ・**大規模集団による征服、侵入ではなく、比較的小規模の集団移住であった**

15

【おわりに】

津田流史学の見直しの必要性

- ① 文献、史料関係記事の理解・把握における素朴すぎる先入観・予断
- ② その結果として史料の安易な切捨てと造作論・反映説という粗雑な推論の展開

- ・習俗、祭祀、トーテミズムの不理解
- ・考古遺物に対する過大評価 ←考古遺物の評価は必ずしも客観的ではない
- ・「人間不在の感」がある考古学者の古代史観には問題が多い

「息長氏族は宇佐国造の支流で、五十猛神が始祖の天孫族(神武を祖とする皇統と同族)であり、広い意味で邪馬台国以降のわが国は万世一系といえよう。」

16

[農耕の開始と集落・墓制]

- 朝鮮半島ではBC2000年頃から雑穀の栽培が広がる。
- 日本でも同時期に雑穀栽培が行われたが、それほど広がらなかった。
- 朝鮮半島ではBC1000年頃から稲作が拡大(BC20世紀に稲作が開始されたとの指摘もある)。
- 農耕の普及とともに定住集落が形成され、朝鮮では支石墓が発展。日本でも九州に支石墓が伝来。
- 朝鮮ではBC8～9世紀に青銅器が製作され、その後、鉄器も使われるようになる。日本の青銅器、鉄器は朝鮮から伝来。



朝鮮半島の支石墓



九州の支石墓

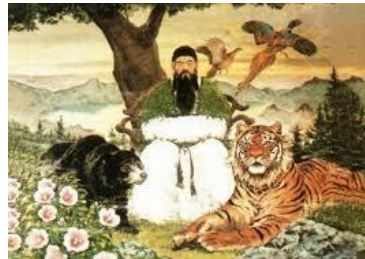
17

[檀君神話 (朝鮮建国神話)]

- 朝鮮の建国神話。『三国遺事』(13世紀に編纂)に書かれ広まった。
- 天神桓因の子桓雄が人間世界を治めるため大伯山(白頭山)に降臨。
- 熊と虎が桓雄に祈願して人間になるための修行をした。虎は修行を途中で放棄したが、熊は修行を続けて人間の女になり、桓雄と結婚し、檀君(王儉)を生んだ。



白頭山



18

- 檀君は堯帝即位50年の年(BC2333年)に、平城に都し「朝鮮」と称した。その後、檀君は1500年間国を治め、「箕子朝鮮」の成立後は、阿斯達(あしたつ)の山神となった。
- 建国の日(10月3日)は、「朝鮮建国の日」(開天の日)として休日になっている。また、平壤には大規模な檀君の墓が設けられている。
- 「檀君神話は信仰的事実」(金両基『物語韓国史』(1989))。
- 檀君即位は神武天皇即位(BC660年)より古い。→ 韓国併合後、日本の学会で檀君神話否定論が盛んになる。



平壤にある檀君の墓



『檀檀古記』

19

[箕子朝鮮]

- BC1122年に周(殷の後の王朝)の武王が殷の王族箕子を朝鮮王とし、檀君の王位を継承したとする伝承。箕子は中国から朝鮮半島に移住し朝鮮を統一。
- 箕子朝鮮の伝承は中国の儒者の一学説であり、中国による朝鮮支配を正当化する伝承で史実ではないとの見解が強い。(孔子は箕子を名君と評価)
- BC4～3世紀 箕子朝鮮は中国の燕と対抗
- BC221 秦が中国を統一(始皇帝) ← BC222 秦が燕を滅ぼす
- BC202 漢が中国を統一(前漢) ← 秦が滅亡(BC206)



20

[衛氏朝鮮]

- BC195 衛満(燕人の軍人)が朝鮮に亡命し、箕子朝鮮を滅ぼして衛氏朝鮮を建国
- 衛氏朝鮮は漢の支配下にあった。
- この時期に、多くの中国人が朝鮮半島に移住
 - 漢民族に土地を奪われた人々が北九州に移住し、「弥生人」となる
 - 九州に水田稲作が広まる、弥生式土器の出現、銅剣や銅鏡を祀る
(武光誠『韓国と日本の歴史地図』(2002)による)

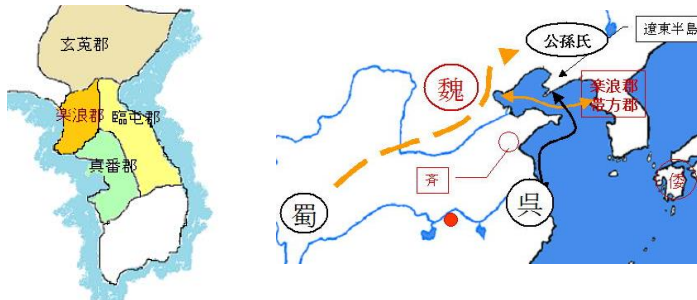


考古学	櫛目文土器時代 8000 BC-1500 BC 無文土器時代 1500 BC-300 AD
伝説	檀君朝鮮
史前	箕子朝鮮 燕 衛氏朝鮮 漢四郡
原三国	辰国 弁韓 馬韓 帯方郡 楽浪郡 濊貊 沃沮

21

[漢による楽浪郡設置]

- BC109 漢が衛氏朝鮮を攻撃
- BC108 衛氏朝鮮が滅亡、漢が朝鮮半島に楽浪、臨屯、真番の3郡を置く
- BC107 さらに北方に玄菟郡を置く……漢による朝鮮統治
 - その後、楽浪郡(平壤が本拠地)が統治範囲を拡大
- AD204 公孫氏(遼東の豪族)が楽浪郡の南に帯方郡を置く
 - 238年 魏が公孫氏を滅ぼし、楽浪郡・帯方郡を支配



22

[三韓の成立]

・BC2世紀末～AD4世紀……3つの部族連合(馬韓、辰韓、弁韓)が成立



[馬韓]

- ・半島西部、52か国の連合
- ・後の百濟の領域
- ・AD9年に百濟国(馬韓のうちの1国)が馬韓の全領土を併合 → 「百濟」の成立

[辰韓]

- ・半島南東部、12か国の連合
- ・後の新羅の領域
- ・秦からの移民が建国したとも言われ、馬韓とは言語が異なる(中国語に近い)

[弁韓]

- ・半島南部、12か国に分かれ、それぞれに王がいた。
- ・後の「任那」(伽耶)の領域

23

[高句麗の建国と好太王]

- ・ BC37 朱蒙(チュモン)が高句麗を建国……朱蒙は扶余の人
- ・ 313年 高句麗が樂浪郡と帶方郡を攻撃 → 樂浪郡の滅亡
- ・ 391年 好太王が高句麗の王に即位
- ・ 396年 百濟が国土拡大 ← 好太王が応戦
- ・ 412年 好太王が死去 → 好太王碑



好太王

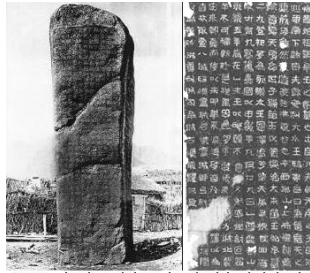


24

<好太王碑（広開土王陵碑）>

中国集安市にある石碑、約1,800字

- ① 始祖朱蒙の建国神話
- ② 広開土王の出自と業績
- ③ 守墓人烟戸の構成、王権の確立



254. 好太王(広開土王)碑と碑文拓本

391年 倭が海を渡り百済を打ち破り臣下とする

398年 百済が倭と和通して新羅に侵入

400年 高句麗が軍を送って新羅を救援

404年 高句麗が倭の侵入に対して抗戦し勝利

25

[百済の建国と変遷]

- ・4世紀初頭…伯濟(ベクチュ)が馬韓を統一(百済建国)[都は漢城(ソウル付近)]
- ・百済の始祖温祚王は高句麗の始祖朱蒙の第3子(建国神話)
……百済の王家は高句麗の王族の分かれ(同じ扶余出身)
← 権威づけのための「神話」との指摘もある



温祚王



26

- ・372年 百済の近肖古王が東晋から冊封を受ける
- ・367年 百済(近肖古王)が日本に七支刀を送る(石上神宮が所有)
- ・396年 広開土王(高句麗)が百済から漢江以北を奪う
- ・475年 高句麗が百済を攻撃
- ・551年 百済の聖王(聖明王)が新羅・加羅諸国と連合して高句麗と戦う
→ 大和朝廷に支援を要請



27

[新羅の建国と発展]

- ・ 4世紀中期……斯慮国が辰韓地域を統一し新羅を建国、都は慶州
(新羅は朝鮮三国のなかで最も小さい後発国家)
- ・ 517年 法興王が兵部を設け**軍事制度を整える**
- ・ 520年 **律令交付(17等官位制)**……日本の冠位12階制度より80年以上早い
- ・ 562年 新羅が**加羅地方**を支配下に置く
- ・ 589年 隋が中国を統一
- ・ 619年 唐が中国を統一 → **唐と新羅の対立**
- ・ **唐と手を組んで百済(660年)、高句麗(668年)を滅ぼす**
- ・ **676年 新羅による朝鮮統一**



慶州



28

[伽耶(「任那」)と倭国]

- ・ 弁韓は小国の乱立状態が続く
- ・ このうち金官伽耶が日本(大和政権)と連携を強化
 ← 日本はこの地域を「任那」と呼ぶ
- ・ **6世紀初頭……日本が任那日本府を設置**



金海大成洞古墳群

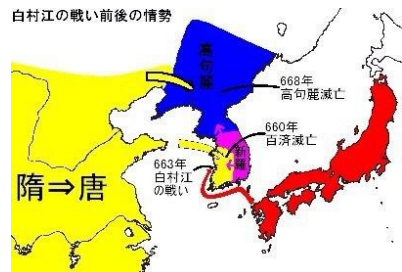


鉄板 金海大成洞2號墳 4世紀 長21~25cm

29

[百済・高句麗の滅亡と新羅による朝鮮統一]

- ・ 581年 隋の建国 → 589年 隋が中国統一
- ・ **612年 百済、新羅からの要請を受け隋が高句麗出兵** ← 高句麗が応戦
- ・ 618年 農民の反乱により隋が滅亡(←高句麗との戦争で疲弊)、唐の建国
- ・ 624年 **百済、高句麗、新羅が唐に朝遣**
- ・ 645年 唐が高句麗に出兵
- ・ **660年 唐が百済を攻撃し百済が滅亡** → 百済王家、百済人が日本に亡命
- ・ **663年 日本が白村江の戦いで唐・新羅連合軍に敗れる**
- ・ 668年 高句麗が唐と新羅の連合軍に敗れ滅亡
- ・ 676年 新羅が朝鮮を統一



30



31



32